

Ohana

第 53 号 2021.12.29



コロナワクチン接種

あゆーる秋祭り

キラナ昼食紹介

社内研修



新型コロナウイルスワクチン予防接種を終えて



新型コロナウイルス感染が瞬く間に全世界を襲い、日常の当たり前の風景や生活が一変しウイルスは驚異となりました。その中でワクチン予防接種は希望の光となりました。医療従事者や65歳以上の基礎疾患がある方が優先とされる中で、理事の皆様や医師のご協力により幸運にも知的障害施設としては最も早くワクチン予防接種を受けることが出来ました。

7月4日(日)1回目、7月25日(日)2回目の接種でした。法人を利用する利用者全員と法人関係職員併せて約300名が一斉に接種出来たことは、かつてない経験でしたが、またそれは容易な事ではありませんでした。

いよいよワクチン
接種開始。



貴重なワクチンが
到着。皆さん興味
津々でした。



皆さん静かに
待機中…



バス内で
も接種…



接種前の緊張感のある表情が
印象的です。

ワクチン接種を施設で行うことが決まり、薬剤師の方々と何度も打ち合わせ・必要な事・必要な物・当日の医務室におけるワクチン分配の作業・職員と利用者の名簿・確定人数…何から何まで不安と緊張の連続でした。当日の動線も支援現場と相談し、場所の確保や流れ等々を一生懸命イメージしてみました。300人という人をどのくらいの時間で進行出来るのか、不安は尽きませんでした。いよいよ明後日、という時に医師から「明日、老人ホームで接種を行うので見学し、当日の参考にして欲しい」というご指示をいただきました。

急遽、統括施設長と看護師で見学させていただきました。車椅子や歩行の不安定な方が多い施設で、医師が自らユニットを巡回して接種されていたのです。医師の素早い動きと共に、ユニットごとに数の分配や利用者の待機の仕方等々…目から鱗の状態でした。統括は、医師が動いて下さるならと前日に全て動線を組み替えました。幹部も緊急メールで打ち合わせを重ね、現場への指示となりました。流れを円滑にするために、一部はバス移動を活かして車内での接種も計画に入れました。これは結果的に、無駄な人の流れを作らず、玄関の混雑も無く良かった点でした。

職員も利用者も、ワクチン接種は切望していましたし、こんなチャンスを作って下さった医師にも感謝の思いは強く、兎に角一糸乱れぬ協力振りでした。終了すると、薬剤師の方達から「こんな予防接種の状況を見たことが無い」「びっくりした」「お見事」と言っていました。恐らく、障害者施設では意味が分からず泣き叫ぶ方や不安で自傷やパニックを起こす方がいるのではないかと感じていらしたのでしょうか。職員も利用者も入り混じっての接種、まるで区別無く粛々と終わりました。

接種前は、副反応に対する不安もあり2回に分けてしていただくか迷ったのですが、これも職員が多くお休みしたらホームやまつぼっくり等で過ごしていただくかと判断が出され、一斉に進めました。職員も利用者さんも副反応が出た方はいましたが、軽微なもので済みました。看護師としては、利用者の底力を感じると共に、いざとなると物凄い集中力と連携を發揮する職員集団にも頭が下がりました。

不安に駆られた準備期間でしたが、まるで大きなイベントを終えたような達成感と爽快感に看護師一同安堵でした。

薬局・薬剤師の皆様、そして何よりもフットワークよろしくご協力いただいた医師及び医療機関の皆様により感謝申し上げます。学びの多い貴重な体験でした。

看護師として、気持ちを新たにコロナ禍に挑んで参ります。



心を1つに、頑張りました!!

靴は脱がず、
そのまま一定移動が出来るよう
養生を施しました。



医師の動線も考えて、
座席は交互に向けています。



当日は、
感染防止対策を徹底した会場設営と
入念なシチュエーションを重ねて
接種に臨みました!

廊下は会場前待機場場として設営。
この時点で接種可能な状態にスタンバイします。



気持ちに
余裕も出始めて、
待ち望んでいます…



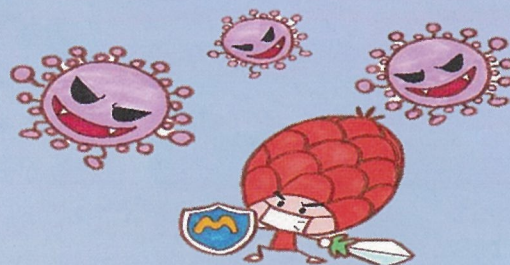
職員も利用者さんも、
一緒に並んで接種します。



医師のサポートに、職員も就いています。



2022年は、「当たり前」の日常に
戻っていますように…
これからもチームで頑張っていきましょう!!





あゆーる秋祭り

コロナ禍において、利用者さんたちにはもう1年以上も外出の自粛をお願いしており、法人としてのイベントもすべて中止をしてきました。例年だったら、夏のお祭りに参加するなど季節を感じられる機会も多くありましたが、そのような機会もないまま夏が終わろうとしていました。

そこで、あゆーるが企画したのが、在宅の利用者さんを対象とした「秋祭り」です。まつぼっくりに入所されている利用者さんは、休日に「お楽しみ昼食会」が行われていたり、グループホーム利用者さんは「キラナ食堂」に行かれていたりする中で、在宅の利用者さん向けの企画は今までありませんでした。また、もちろん全員でわいわいと楽しく行いたかったのですが、このご時世ですから、安全を優先して少人数で、ということで今回は在宅の利用者さんのみでの開催としました。日にちは、9月18日（土）の家族会の日。普段の家族会の日は、5～6名程度の方しか利用しませんが、この日は、21名もの方が参加してくださいました。何日も前から「楽しみ」と言ってきた利用者さんたちも多く、職員も準備にいきそんできました。



お祭りの定番！
「金魚すくい」



当日は、1階の作業スペースに金魚すくいと輪投げのゲームコーナーを作りました。皆さん、輪投げや金魚すくいに挑戦し参加賞のお菓子をゲットして喜んで召し上がっていました。中には、集団が苦手で職員が誘ってもゲームコーナーに行きたがらない利用者さんもいましたが、同じエリアの利用者さんが「一緒にやろう」と誘うと、すんなりと輪投げに挑戦できた利用者さんの姿も見られました。みんなが輪投げと金魚すくいに熱くなってきたころ、次の楽しみが…。

会場にはどこからともなく祭囃子が…

焼きそばとフランクフルトがお祭り風の容器に詰められて皆に配られました。ソーシャルディスタンスを確保するため、それぞれのエリアに散って距離をとり、パーティション越しに会話しながら、職員も一緒に味わいました。普段の昼食では野菜を食べない利用者さんも、焼きそばに入っているたっぷりの野菜をぺろりと食べてしまいました。たくさん食べて大満足の笑顔がたくさん見られました。



焼きそばとフランクフルト
は職員の手作り☆



ある職員は、入社してしばらくしてからコロナ禍に入り、法人のイベントにはほとんど参加できていませんでした。その職員は、担当する利用者さんがこのようなイベントに参加する姿を初めて見て、今まで見たことのないような笑顔とはしゃぐ様子に驚き、また新たな一面を見ることができ、勉強になったと語っていました。このようなイベントは、利用者にとっても、職員にとっても、大事な意味を持つことを改めて感じ、今後も感染対策には気を付けながら楽しいイベントを企画していけたらと思っています。



キラナ 昼食メニュー 総選挙 開催!

キラナでは専属シェフ率いる4名の厨房スタッフによる手作り、出来立て、特徴のある昼食が楽しめます。これは他の事業所では味わうことができない、キラナの大きな特色のひとつです。そこで今回、数あるメニューの中からトップ3を決めるべく、総選挙を開催しました！キラナはもちろん、同じくキラナの昼食を提供しているチャクラ、カーリーの利用者さん、職員36名が投票を行いました。

No.1 手ごねハンバーグ 12票

No.2 ハンバーガー 9票

No.3 味噌ラーメン 9票

焼き鳥丼 7票



が驚く光景です。そして第3位はキラナ名物焼き鳥丼！20年以上継ぎ足しながら作った秘伝のタレには鶏、こんぶ、サバ出汁、かつお出汁入り。食べたときにフワツとかつおの香りが抜ける濃厚なタレがたまりません。つくね、もも肉、ねぎま、レバーの超人気メンバーで構成された焼き鳥丼、ご飯がススム一品です。



ここで麺の登場です。赤だしと仙台みそを合わせるにより、コクのあるしつかりとした味わいが特徴です。5キロの豚骨を10時間かけてじっくり煮込みます。豚骨をトンカチで砕いているシェフ、初めて見たときは誰もが



同じく2位の味噌ラーメン、続いて第2位のハンバーガーはなんと、まだ2回しか出ていません。よほど皆さんの中で印象に残っているメニューだったのでしょうね。(そのうち1回はキラナ食堂です)



堂々の第1位はハンバーグ！いくつになってもみんな大好き♡毎回およそ5キロの牛・豚の合い挽き肉を使用、栄養バランスも考えて玉ねぎなどの野菜、そしてお豆腐がたっぷり入っています。お豆腐を入れることによりふわふわジューシーなハンバーグになります。

利用者さんの声

・キラナのごはんは美味しいよ
・キラナのごはんを食べたら幸せな気持ちになる
・ハンバーグ、また食べたい、大好き
・お仕事中にいい匂いがする、明日が楽しみになる



職員の声

・キラナで働けてよかったです
・今はコロナで外食ができないので、様々なランチが楽しめてありがたいです
・家ではこんな沢山の献立が作れないので勉強になります



キラナ 調理スタッフのみなさん



(左から)

Mさん：人参の干切りが得意です！
Kシェフ：何十年も料理人をやっていますが、今が1番楽しいです！
H職員：みんなに美味しく食べてもらいたいです！
G職員：秘伝のタレを作っています！

明日のお昼ごはんは なにかなあ〜♪

社内研修報告



○令和3年度はコロナウイルス感染対策のため、オンラインにて研修を行っています。今年度は採用年度別に分かれて実施。実際に顔を合わせてはいませんが、画面越しでの工夫を凝らした研修の報告です。

★受講生編



年次別研修（2・3年目）

今年度の研修では、「自閉症・発達障害に関する正しい知識」と「行動を分析する力」を身に付ける事がテーマとなっています。ABC分析と氷山モデルを用いて、仮想事例の問題となっている行動が出る背景を本人の特性や環境・状況から分析しています。

ZOOMで同期と話す中で、2年目となり、個別支援計画や行動支援計画を立てる事にも携わっているため、1

年目の研修の際の話し合いよりも、実際の経験も踏まえて、それぞれの話の深まりを感じました。

日々の関わりの中で、前年度は目の前のことでもいいいっぱいでした。視野を広く持つことで見えてくることがあったり、研修で学び考え方が変わったこともあります。今後も研修で様々な視点からの見方や知識を吸収し、支援する際に思い出し、利用者の方の行動の背景を分析する力を培っていきたいと思います。

★マスク着用、ソーシャルディスタンスはしっかり!!



年次別研修（8年目以上）

私たち8年目以上職員の研修は今まで勉強してきた事や現場で実践してきた事を元にその経験を活かして新人職員や経験年数の若い職員に説明出来るようになるという事が主なテーマとなっています。実際に行なうとそれは難しいもので、当然相手もある程度の知識がある事を前提として説明をしてしまいます。更には長くなってしまうって伝えたいことがうまく伝わらないことも経験しました。相



※社内研修以外では、毎月の家族会や見学会、外部との会議、面談もオンラインで行っています。



★研修を受ける場所が自由なものもオンラインならではの、外の景色を見ながらだったら緊張も和らぐ?

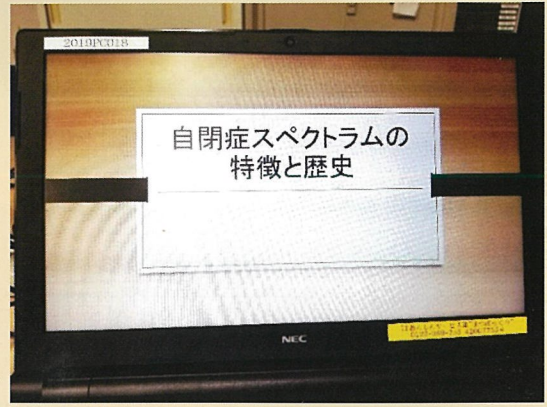
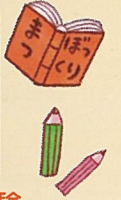
この1年でオンライン会議のスキルも随分向上しました。



★画面越しでも仲間の顔が見えると安心しますね!!

手は知識が浅かったりわからない事も多い、専門的な用語では伝わりにくい、もつと分かり易い言葉で簡潔に伝えることが大切。分かっている、いざとなるとなかなか言葉が選べないことも良い経験でした。ZOOMではグループに分かれて討議しますが、私自身説明する事が苦手で、分かり易く簡潔に伝えるという事の難しさを痛感しています。職員同士切磋琢磨しつつ、人を育てていく年代なのだということに自覚し、研鑽に務めていきます。

★講師編



支援のお仕事は基礎的な学習が第一歩。経験を積んだ職員も更に学習を続けています。

研修の講師を務め
私も研修を受け学ぶ立場ですが、2・3年目職員への研修講師を担わせていただきました。

研修内容は普段関わる利用者さんの特性理解の為の基礎知識から、行動特性や行動の背景を読み取る、「応用行動分析・冰山モデル」など専門的知識や技法などです。どうしても単に伝えるだけにならず、学んだ事が支援の中で実践し実感できるようにするか、準備していきましたが、講義をした際はあれもこれもと伝えたい想いがいっぱいになり説明が長くなってしまふ、早足になつてしまふなど、限られた時間で

伝える難しさを痛感しました。

実践や研修で得た、経験・知識を整理し説明する事で、研修を受けた職員以上に私が学ぶ機会になったと感じています。受講者が研修に向け準備していく姿を見て、職員同士が専門知識や技法を共有していく環境を作っていくことで、一人ひとりの専門性やチーム力も上がり、支援力が上がっていくのだと改めて感じました。

★難しくなりがちな研修内容。新入職員のゆるる気をアップさせるのも講師の大切な務めです。

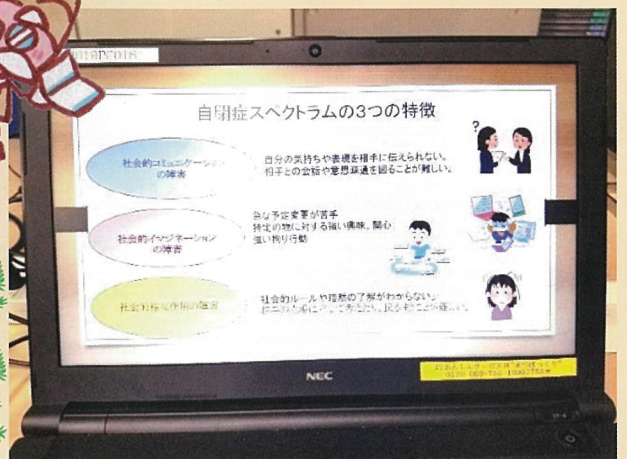


今年度の内部研修では、講師としての責務を仰せつかり、若手のスタッフ達にASDや自閉症スペクトラムといった専門知識を教える立場としても動きました。

これまでは、研修を受講する側であり先輩スタッフからフィードバックを貰いながら知識を吸収し、支援の現場で実践してきたつもりですが…

今回は私が後輩達へ専門的な内容を教えるにあたって、責任の重さというものを強く感じました。

講師の立場として研修に参加することで、逆に学ぶことも多かったようじゃのお

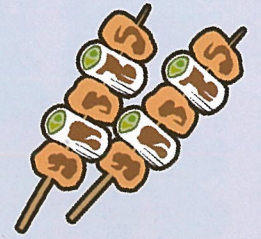


「理解している知識は本当に正しい?」「相手に上手に伝える方法は?」…手元の資料を何度も掘り返しながら、いざ登壇すると、本心はドキドキしながらも、受講するスタッフが熱心に話に耳を傾け、メモを取る姿を見て、「皆が有意義な時間を過ごせるよう頑張ろう!」と奮い立たされました。同時に責任重大だと感じました。

研修を組み立てる中で感じたことは、支援はバトンパスに似ているという事。正しい専門知識を伝えること、そしてそれを実践で活かせるようにサポートすることで深い学びと良い支援も継承されて行くのではと感じました。



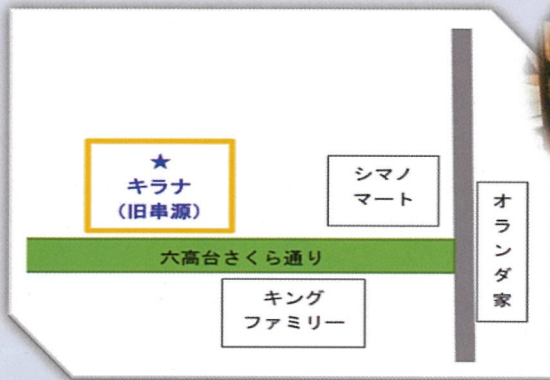
やきとり



地元で愛される串源自慢の焼き鳥が復活販売中

毎週金・土曜日 16:00～19:00 キラナ前で販売中です。

国産鶏使用の豊富なメニューでお待ちしています♪週末お酒のおつまみにいかがですか？



【後援会「ハーモニー」会員紹介のお願い】

後援会「ハーモニー」では、私たちとともに活動して下さる方、私たちの活動を支援して下さる方を広く募っています。後援会「ハーモニー」は、社会福祉法人まつど育成会が目指す、障害者の年代ごとに応じた支援体制(障害者総合支援法に基づく施設入所支援、グループホーム、ケアホーム、多機能型通所施設、地域活動支援センター等の就労場所の確保など)を支援することを目的に設立されました。これらの各種事業を成功させるためには安定的な経営基盤が必要です。後援会「ハーモニー」への期待も大きなものがあります。つきましては、本会の趣旨と現状をご理解いただき、企業、ご親戚、お知り合いの方、一人でも多くの方が会員としてご入会くださるようにご紹介をお願い致します。

【後援会費】 一般会員 年額一口 3,000 円(一口以上)
特別会員 金額は任意です。

【入会方法】 入会ご希望の方、ご紹介いただきました方には、入会申込書と手数料無料の郵便振込取扱票をお送り致しますので、下記口座に会費を払い込みくださるようお願い致します。払込金受領書をもって領収書とさせていただきます。

【口座番号】 00150-0-537583

【加入者名】 後援会「ハーモニー」

【お問合わせ先】

〒270-2204 松戸市六実1丁目 64 番地

社会福祉法人まつど育成会内 後援会「ハーモニー」

～執筆者紹介～

あゆーる秋祭り	網 和子
キラナ昼食紹介	赤間 千栄
コロナワクチン予防接種を終えて	
	小室 弘美
	秦野 敦子
年次研修・講師	金村 俊貴
	東尾 知起
年次研修・受講生	上島 光彦
	大徳 あさひ